

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	セントラル・パーク こはま		
○保護者評価実施期間	R 7 年 2 月 1 日 ～ R 7 年 2 月 2 8 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R 7 年 2 月 1 日 ～ R 7 年 2 月 2 8 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R 7 年 3 月 2 1 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心して過ごせる環境づくり	・定期的な環境整備や清掃を徹底し、衛生的で快適な空間を維持している ・こどもが安全に過ごせるよう、家具や設備の配置を工夫し、事故防止に努めている ・こどもの特性に応じた空間の構造化を意識し、わかりやすい環境設定を行っている	・こどもの成長や発達に合わせて、遊具や学習スペースの配置を見直し、より良い環境を提供する ・感覚過敏や集中力の課題に配慮し、静かに過ごせるスペースや休憩エリアを設ける ・こども自身が環境整備に関わる機会を増やし、自主性を育む取り組みを導入する
2	こども一人ひとりに寄り添う支援の提供	・こどもの得意なことや好きなことを活かした支援を行い、自己肯定感を高める工夫をしている ・定期的に支援の見直しを行い、成長に応じた適切なアプローチを取り入れている ・こどもが楽しみながら学べるよう、遊びを取り入れたプログラムを実施している	・職員の専門性を高めるため、外部研修や勉強会の参加を促し、支援の質を向上させる ・こども一人ひとりの成長記録をより詳細に記録し、保護者とも共有できる仕組みを整える ・より多様な活動を取り入れ、こどもの可能性を広げるための支援の幅を広げる
3	保護者との連携と支援の充実	・保護者が気軽に相談できるよう、個別面談や連絡ノートを活用している ・保護者向けの情報提供を定期的に行い、こどもの発達支援に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている ・支援計画の説明時には、専門用語をできるだけ使わず、わかりやすく伝える工夫をしている	・保護者向けのペアレント・トレーニングや研修会の開催頻度を増やし、家庭での支援の質を向上させる ・SNSや通信を活用し、支援内容やこどもの活動状況をより頻繁に発信できる仕組みを構築する ・保護者同士の交流の場を増やし、悩みや情報を共有できる機会を作る

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援の充実度	・家庭の状況や保護者のスケジュールの関係で、保護者会や研修会の参加率が低くなりがち ・家族支援プログラムの企画・運営に関わるリソース（人員・時間）が不足している	・ペアレント・トレーニングや保護者会などの機会が十分ではなく、保護者同士の交流の場が少ない ・家族向けの支援プログラムが充実しておらず、情報提供の機会が限られている
2	情報共有の仕組み	・日々の支援内容やこどもの様子を伝える仕組みが整備されていない ・保護者が情報を受け取る手段が限定されており、デジタルツールの活用が不足している	・保護者との連携が十分に図られていない部分があり、日々のこどもの様子や支援方針の共有が不十分ことがある ・SNSや通信を活用した情報発信が少なく、保護者が事業所の活動を把握しづらい
3	地域連携	・地域の他の施設や学校との連携を深めるための具体的な取り組みが不足している ・交流イベントや合同プログラムの企画・実施の機会が少ない	・他の施設・学校・地域との交流機会が少なく、こどもが地域社会と関わる場が限定されている ・地域の他の福祉機関や教育機関との連携を強化する必要がある
4	保護者への制度理解不足	・制度の情報が複雑であり、専門用語が多いため、保護者が理解しにくい ・事業所が制度に関する説明会や資料の提供を十分に行っていない可能性がある ・相談窓口の存在が十分に周知されておらず、保護者が質問しにくい環境になっている	・児童発達支援の制度や利用できるサービスについて、保護者の理解が十分でないケースがある ・事業所からの制度に関する説明が分かりにくかったり、情報提供が不足している可能性がある